

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700090		
法人名	医療法人 万裕会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 けあらいふラルゴ		
所在地	岐阜県高山市新宮町676-5		
自己評価作成日	平成27年12月15日	評価結果市町村受理日	平成28年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_021_kani=true&JiyosyoCd=2192700090-00&PrefCd=21&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能型の特性を生かし、利用者の個々のニーズに柔軟に対応している。たとえば、なじみの床屋に行きたいが交通手段がなく足が遠のいてしまっていた90代のおじさんが訪問介護による移動支援で定期的に散髪にいけるようになったり、遠方のご家族様が看取りを希望の末期癌の方のお部屋と一緒に過ごしていただく等、状況に応じた支援ができます。また、母体の医療法人と連携をとり24時間の医療面での支援が受けられる点も皆様に安心して過ごしていただける重要な要素となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市の郊外にあり、広葉樹に囲まれた自然豊かな環境にある。近くには、運営母体の病院があり、24時間の医療連携を図って、利用者が健康を維持し、穏やかな生活が送れるように支援をしている。さらには、個別に応じた外出や通院介助も行っている。日々の生活は、レクリエーションを充実させ、脳の活性化で笑顔を引き出し、子犬や猫、ウサギなどのアニマルセラピーを取り入れている。管理者は、様々な研修の受講を奨励し、職員に機会を与え、専門性を高めている。職員は、それぞれの介護力向上に努め、利用者が住み慣れた地域の中で、安心して、その人らしい生活が送れるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の研修及び、職員会議で地域密着サービスである小規模多機能についての事業所理念を理解確認することで実践に結び付けています。	理念は、利用者が「日常生活を自分らしく生きることの支援」を含め、3項目とし、地域密着型サービスの意義を職員会議で確認し、共有している。地域の保健、医療、福祉と連携し、安心と安らぎのある生活を実践している。	理念は、職員や利用者、来訪者等、誰もが目に触れることができる場所に、掲示してあることが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、近隣の福祉事業所との交流、町内行事への参加等を随時おこなっている。	代表者が町内会員であり、事業所の情報を発信している。町内行事や老人会に参加したり、祭りでは、獅子舞が巡ってくる。毎月、住職が法話に訪れ、利用者の楽しみとなっている。隣接の地主(大家)は、運営の協力者である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第三土曜日にカフェとして場所を開放し、どなたでもお茶を飲みにくてくださいようしている。また、以前利用していた介護保険非該当となった方も月に2、3回遊びにやってくる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長さんや、地域の有識者の方は毎回必ず参加くださり、貴重な意見を伺うことができている。	運営推進会議で、運営の現状や今後の取り組みを報告し、議題に沿って意見を交換している。直近の会議では、感染症対策や避難訓練の検証、大雪対策などを話し合い、運営やサービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高山市高年介護課、及び包括支援センター、福祉課等と連携をとり地域の支援が必要な方についての相談、または支援内容での連携関係を築いている。	市の担当課、および、地域包括支援センターと緊密に連携している。加算申請、生活保護、登録定員についてや、事故報告などを相談し、助言を得ている。運営推進会議でも、事業所の実情を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症が進行し徘徊を頻回にされるかた、他所にて暴れると拘束されていた方も登録し利用しておられますが、当事業所では一切拘束等は必要なく穏やかに快適にお過ごしいただいており、1人1人丁寧に向き合うことで拘束は必要ないことが立証されております。	身体拘束をしないケアに取り組み、事業所全体で徹底している。利用者に不穏な行動が見られれば、安心できるよう、生活環境を見直し、整えている。個々の思いに向き合うことで、拘束の必要がないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年の5月に虐待権利擁護についての事業所内研修を行い、様々なケースの虐待にあたる行為について学び各職員に振り返りを求め見過ごすことがないように日々注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について登録者の方で後見人制度を利用している方があり、職員にとってもよい機会であるので学びの場を設け研修をおこなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ご家族ご本人に重要事項の説明及び契約に関しての説明をしっかりと行い、不安や質問等を受け付け理解納得をはかっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族と月に一回は必ず、話をする機会をもち、希望要望を聞くことで運営に関しての改良点を常に反映させるようにしている。	運営推進会議には、利用者・家族の参加がある。また、介護支援専門員を中心に、面談の機会を設けている。毎月発行している「らるご新聞」と、サービス提供記録を家族に送り、相互理解を深め、要望には、出来る事から対処をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員と毎月のミーティング及び、個別に話す機会をもうけ、意見を交換し反映している。	定例の職員会議で、意見や提案を話し合っている。職員の勤務調整や交通事故防止、行事企画、服薬管理などの多様な意見や提案があり、職場環境整備を検討し、できることから、運営に反映させている。	職員の労務負担の軽減に努めているが、利用者・家族に、ゆとりを持って対応できるように、必要な人材を確保し、若い職員の育成につながるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の設定、昇給、処遇改善手当の付与、有給、勤務変更、喫煙所の設置等、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多く持ち、更なる資格を望む職員には法人より資金面でのサポートをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能の連絡協議会を2ヶ月毎に設け意見交換をしている。また、他事業所の訪問看護、障害関係の事業所との連携を含め相互の情報交換でネットワークを構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを十分に行い、利用者が何を必要としているかを洗い出し、支援を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を疑問に思っていることを納得のいくまで話してもらいサービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能型だけでは不十分な場合訪問リハビリ等をご本人ご家族が希望される場合、外部の訪問看護ステーション等のサービスも加え満足のいく支援ができるようつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の年齢層が若いのでご利用者様から先人の知恵を授かることも多く、非常によい関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者家族が職員を頼りにし、職員も頼られることばかりでなく、年長者に学ぶことも多く、双方で支得あっている面もあり、交流が深まるごとに利用者に対しても共通の理解を持つことができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との交流や、なじみの商店への買い物支援等本人が地域に取り残されないための支援を行っている。	併設のサービス付き高齢者向け住宅の入所者と、日々交流をしている。カフェや馴染みの理・美容院、買い物などへ出かけている。地域の祭りや季節の花見は恒例になっており、馴染みの人に出会える場となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日顔を合わせる人が多いので、それなりのいざごは日々起こるが、それも日常生活の一環となるように職員が上手に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中亡くなられた方のご家族が今でも訪問して下さる等、関係性を大切にしている。また、先に述べたように非該当となり利用終了した方も遊びに頻りに訪れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に対し現場の職員の担当をきめ、個別に関わる時間をとるようにつとめている。	職員との会話や、利用者同士の会話から、利用者の様々な思いを汲み取っている。耳の遠い人には、低い声でゆっくり語りかけ、その人の思いを把握できるよう努めている。一人ひとりの気持ちを受け止め、それを叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔なじみの商店への買い物移動支援や、かかりつけ医への受診同行等個々の昔からの暮らしが継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々の一日の流れを把握し、計画書を作成し、現状にそった支援を行えるようにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	他事業所と連携をとり個別のケアについては、よく検討しサービスが行われるようにつとめている。	サービス担当者会議には、本人・家族が参加して開催している。介護支援専門員が、出席者の意見を集約し、介護計画を作成している。食事管理や利用者の状態と歩行の安定に加え、自立につながるよう計画づくりを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記載し、日々の申し送りを徹底し職員間の情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護度の軽い重いに関わらず目先優先すべき困りごとが発生した場合、要支援の方でもディの毎日の利用や連泊の実施等、柔軟なサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を十分に把握して安全で豊かな暮らしができるように支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意見を聞き入れ、かかりつけ医との十分な関係を構築し、適切な医療を受けられるように支援できている。	同法人の医師を、かかりつけ医とし、本人・家族の同意を得ている。協力医院は近接し、定期・随時の往診体制がある。特定患者は、職員が同行して専門科を受診している。急変時にも連携を密に行い、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は2名配置しており常時利用者の状態観察対応が実施できるようになっており、母体のクリニックとも連携も密に行えるよう緊急携帯等で24時間に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者からは特に厚い信頼を得ており、重篤な疾病を持っている方でも貴施設ならと紹介を受けるまでになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては家族・本人の意向を十分に組み入れ話し合いを持ち対応している。また、医療連携も十分な体制で行っている。	契約時に、重度化や終末期の方針を、本人・家族に説明し、同意を得ている。医療対応の可否を見極め、事業所、または、在宅での支援体制を取っている。開設1年未満であるが、数例の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	喀痰の吸引の研修に今年度4名実施。また、救急救命の研修には職員全員で行い、実践力を身につける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	24時間対応できるように、夜勤者以外に非常用携帯を2名常時もっている。又、近隣の方にも非常時に協力要請できる体制を整えている。	法人合同の災害訓練を、消防署の協力の下で実施をしている。夜間を想定し、通報や避難、初期消火などの訓練を行い、近隣との協力体制を整えている。食品の備蓄や近隣の伝達手段に、携行型の拡声器を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の対応には十分な配慮をしており、入浴は完全に一人ひとりで実施、同性介助を強く希望される方には必ずそれを実施している。	言葉かけの際は、利用者と目線を合わせ、耳の遠い人には、トーンを低く、優しく語りかけている。入浴や排泄介助では、羞恥心に配慮をし、誇りを損ねない対応に努め、プライバシーの確保を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外部に書簡を出したいと希望や、友人に会い対等の希望をなるべくすべてかなえられるようにしている。又、そういった気持ちを持てるよう働きかけを日々行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を聞き入れ希望に沿った生活が行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	つきに一回出張美容院をお願いし、カットや毛染めをしたいという思いが満たされるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日行っている。利用者の中で得意な方は調理の手伝い、そのほかの方は配膳、食器拭きなど日々参加してできることをおこなっている。	利用者の得意なことを活かし、調理や準備、片付けなどを手伝っている。苦手な食材や調理法は、代替食で対応し、満足のできる食事を提供している。職員も同じ食事を別室で摂り、交替で見守りに専念をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事量のチェックを毎日実施し記録をとっており、必要に応じた対応ができるようにつとめている。(栄養状態が悪い場合は医師へ連絡し高栄養補液等を処方してもらっている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアはもちろん、ケアプランの中に居宅管理指導の歯科衛生士による口腔ケアを希望利用者には取り入れ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを観察し、状態を把握することでパターンを設定し自立を促すような支援を行っている。	個別の排泄リズムに応じたトイレ誘導で、失敗を減らし、排泄の自立につなげている。日中は、本人の表情や仕草を観察しながら、リハビリパンツで過ごしてもらい、夜間は、状態に合わせたおむつを選択し、排泄用品の削減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールを行い、状態に応じた対応を行っている(服薬、食事、下剤、排便)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	柔軟に対応し個々に応じた入浴を行っている。(時間配分や、皮膚状態のケア、同性介助等)	入浴回数や順番は、個々の希望に応じている。風呂好きの人がほとんどで、本人のこれまでの入浴習慣に沿って、ゆったりと、楽しい入浴を支援している。湯は、午前・午後に入れ替え、同性介助にも配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の部屋はディルールの騒音が聞こえにくい構造になっておりプライバシーが確保できるように、安心して眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を導入し独居の在宅の方でも安心して薬の服用管理ができるように配慮し、小規模多機能型居宅介護でも通い・訪問時に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サイダーや好き、団子が食べたい、カラオケが好き、踊りを踊りたい等の個別之嗜好を把握し行事等に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	登録者の個別の希望を取り入れ計画的に外出の機会を設けている。また、家族への連絡等を積極的に行い利用者の気持ちの和紙渡しにつとめている。	周辺の散歩や買い物、温泉、同業者が運営するカフェなどへ出かけている。個別の外出にも応じられる体制があり、家族の協力を得て、連携しながら、利用者の希望する外出が叶えられるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方でも他者に迷惑がかからない程度の金額を所持できる用に対応している。 (一緒に買い物を行い本人に支払いをさせる等)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他県にいる友人に手紙を頻繁に出している方には便箋と封筒を渡しつつでもやり取りができるように支援している。また投函については職員が変わりに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	他事業所と連携をとり個別のケアについては翌検討しサービスが行われるようにつとめている。	居間は食堂を兼ねており、テーブルは、レクリエーション時には、いつでも移動できるように、空間を確保している。書道や壁飾り、手づくり作品を飾り、金魚やメダカの水槽もある。子犬や、つがいのウサギを飼っており、利用者が触れ合うことができ、癒しの共用空間でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のよい利用者同士が一緒に話せる場所を作ったりして、工夫している。ソファのスペースもありゆったりと過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりのお部屋には、荷物を自由に持ち込んでいただき安心して自宅と変わらず過ごせるようにしていただいている。	泊まりでは、使い慣れた身の回り品を自由に持ち込んでいる。長期の人は、馴染みの机、椅子、収納ケースや洋服掛けなどを使いやすく配置している。飛騨地方に伝わる正月飾りの花餅を飾り、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ディルールのスペースをいくつかに分け他者とのトラブルが起こりにくいように工夫している。安全には十分配慮し机の脚につまずかないように常に注意を払い工夫している。		